



吉崎市 洪水ハザードマップ


洪水時の逃げ時判定				
浸水のおそれのある区域	10m以上の浸水	家屋倒壊のおそれ	●早めに避難場所などの安全な場所へ避難	家屋倒壊等氾濫想定 家屋が倒壊するような氾濫流や河岸侵食のおそれがあるため、 早めに避難場所などの安全な場所に避難
	5～10m までの浸水	家屋が水没するおそれ		
	3～5m までの浸水			
	0.5～3m までの浸水	床上浸水のおそれ	●早めに避難場所などの安全な場所へ避難 ●すでに周辺が危険な場合は、2 階以上のより高い場所へ避難	
	0.5m 未満の浸水	床下浸水のおそれ	●浸水しない安全な場所 ●自宅 2 階など、高い所へ避難	
	浸水想定区域外	浸水が広がる可能性	●積極的な情報収集 ●危険を感じたら、高い所へ避難	
土砂災害警戒区域	がけ崩れや土石流、地すべりの危険		●土砂災害ハザードマップを確認し、早めに安全な場所に避難	

避難に関する情報			
警戒レベル 市町村の情報	みなさんがとるべき行動	避難行動をとる際の判断に参考となる情報	
		(警戒レベル相当情報)	キキクル (危険度分布)
警戒レベル5 緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保！	氾濫発生情報 大雨特別警報	災害切迫
警戒レベル4 避難指示	危険な場所から全員避難	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報	危険
	●過去の重大な災害の発生時に匹敵する状況。この段階までに避難を完了しておく。 ●台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。		
警戒レベル3 高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難	氾濫警戒情報 大雨警報 洪水警報	警戒
	●高齢者以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。		

内水氾濫と外水氾濫


洪水には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなることにより起こる「内水氾濫」と川の堤防が壊れたり、堤防から水が漏れたりして発生する「外水氾濫」があります。

内水氾濫




短時間に集中して降る豪雨等により、水路や下水道の排水機能を超える大雨が降ったり、川の水位上昇により十分に排水できなくなると、マンホールや側溝から雨水が漏れ、住宅地や道路などが冠水します。

外水氾濫



長時間雨が降ると、河川の増水により堤防が壊れたり、堤防から水が溢れだして浸水します。また、その付近で雨が降っていないくても、上流で降っていれば、河川が増水し、同様に浸水する危険性があります。

このような前兆を確認したら避難しましょう



- 川の近くでは、まわりの空が真っ黒になったらすぐに避難する。
- 雷鳴や稲妻を確認したら建物内へ避難する。
- 冷たい風が吹き出したら注意する。
- 大粒の雨やひょうが降り出したら建物内へ避難する。
- 雨の日に周囲より低い位置にいる場合は、高い場所へ移動する。
- 川の近くで警告のサイレン音がしたらすぐに川から離れる。

安全に避難するために

■事前に準備を

普段から避難場所までの安全な経路などを確認しておきましょう。



■持ち物は最小限に

荷物は背負い、両手か使えるようにしましょう



■状況により早めの避難を

避難情報が発表されていなくても、状況などから判断し自主的に避難しましょう。



■車は使わない

他の避難者や緊急車両のさまたげになり、数十センチの浸水で車が浮いてしまい自分も危険です。



■隣近所で声をかけ合って

避難は2人以上でしましょう。隣近所を誘って集団で避難しましょう。



■マンホールや側溝に注意を

急激な大雨が下水管に流れ込み管内の圧力が上昇して、マンホールのふたが開いてしまう場合があります。浸水が進むなか、マンホールや側溝にはまってしまうと大変危険です。



■避難所では気象状況に注意を

避難場所では相互に協力を。被害の状況や今後の気象状況を確認します。



■深さに注意


歩行可能な水深は約50センチ以下。水の流れが速い場合は20センチ程度でも危険となります。



被災後の安全確認

防災 チェックポイント


- 断線した電線が垂れていたら、絶対に触らず電力会社に電話する。
- 落下や倒壊しそうな危険物には、近寄らず専門業者等に連絡する。
- 浸水の被害に遭ったら消毒を急入りにする。
- 水害を受けたら衛生面に注意する。水道水は煮沸し、手の消毒を忘れないなどの注意が必要。
- 活動時にはけがをしないように肌を露出しない服装にする。ヘルメットを着用して落下物に備える。
- 家の中は、風通しを良くして乾燥させる。



避難に関する3つの情報

1 高齢者等避難


人的被害の発生する危険性が高まった状況



- 避難するのに時間がかかる高齢者などの避難行動要支援者は避難を始めます。
- 通常の避難行動ができる人は、家族との連絡、非常持出品の用意など避難の準備を始めます。

2 避難指示


人的被害の発生する危険性が非常に高まった状況、あるいはすでに人的被害が発生した状況



- 危険な場所の住民は指定された避難場所に避難を始めます。
- 万一避難する余裕がなければ、命を守る最低限の行動を取ります。

3 緊急安全確保

避難中の住民は直ちに避難を完了してください。



避難行動要支援者とは

避難行動要支援者とは、災害発生時に自ら避難することが困難で、避難するためには支援が必要な人々のことです。一般に高齢者や障がい者、乳幼児や妊産婦、日本語を十分理解できない外国人の方々などが該当します。地域で協力しあいながら、近所の高齢者、障がいのある方などの安否確認、避難施設への移動を支援しましょう。

高齢者・病人

- おぶって安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。



肢体の不自由な方（車椅子）

- 階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1 名の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。



目の不自由な方

- 声をかけ情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手に触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩手前をゆっくり歩く。



耳の不自由な方

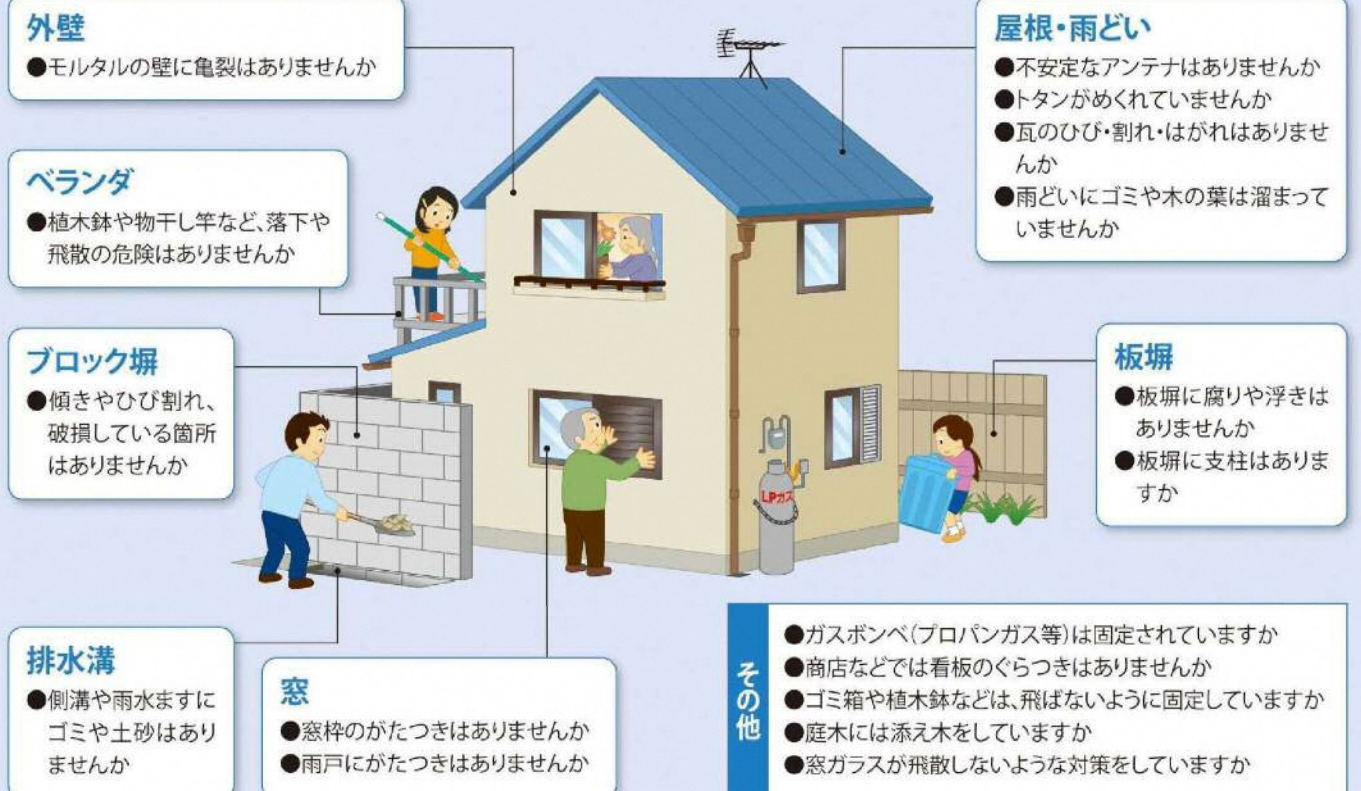
- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。



名 称	電話番号	緊急	所 在 地
吉崎市役所総務部危機管理課	48-1111		吉崎市郷ノ浦町本村触 562
吉崎市消防本部・消防署	45-3037	119	吉崎市芦辺町中野郷西触 411-2
吉岐警察署	47-0110	110	吉崎市郷ノ浦町本村触 551-1
吉岐海上保安署	47-0508	118	吉崎市郷ノ浦町郷ノ浦 648-5
吉岐振興局総務部総務課	47-1111		吉崎市郷ノ浦町本村触 570
吉岐振興局保健部（吉岐保健所）	47-0260		吉崎市郷ノ浦町本村触 620-5
長崎県庁危機管理部	095-842-1111		長崎市尾上町 3-1
九州電力送配電(株)吉岐営業所	0120-986-202		吉崎市芦辺町諸吉大石触 427-4

家屋の被害を抑える

台風や大雨などによる被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・補修・補強を行い、十分な水害対策を講じておきましょう。



- 外壁**
 - モルタルの壁に亀裂はありませんか
- 屋根・雨どい**
 - 不安定なアンテナはありませんか
 - トタンがめくれていませんか
 - 瓦のひび・割れ・はがれはありませんか
 - 雨どいにゴミや木の葉は溜まっていませんか
- ベランダ**
 - 植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険はありませんか
- ブロック塀**
 - 傾きやひび割れ、破損している箇所はありませんか
- 排水溝**
 - 側溝や雨水すにゴミや土砂はありませんか
- 窓**
 - 窓枠のがたつきはありませんか
 - 雨戸にがたつきはありませんか
- その他**
 - ガスボンベ（プロパンガス等）は固定されていますか
 - 商店などでは看板のぐらつきはありませんか
 - ゴミ箱や植木鉢などは、飛ばないように固定していますか
 - 庭木には添え木をしていますか
 - 窓ガラスが飛散しないような対策をしていますか
- 板塀**
 - 板塀に腐りや浮きはありますか
 - 板塀に支柱はありますか

家庭でできる簡易水防

浸水が浅い場合には、土のう（ない場合は水のう）を設置することで、水が建物に侵入することを防げます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板（はしごやテーブルでも可）などを、ビニールシートで包んで設定してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておく、より効果的です。

簡易水防工法例①

プランター+ビニールシート

土を入れたプランターをビニールシート巻き込んだものを使用し、浸水を防ぎます。



簡易水防工法例②

簡易水のう+止水板

簡易水のうを作り、長めの板などを組み合わせて出入りに設置し、侵入を防ぎます。



「簡易水のう」の作り方



家庭で使用しているごみ袋（40リットル程度の容量）を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。

■命を守る最低限の行動とは

危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難場所への移動「水平避難」だけでなく、命を守る最低限の行動「垂直避難」が必要な場合もあります。

水平避難



避難場所への早めの避難

垂直避難



高所への避難